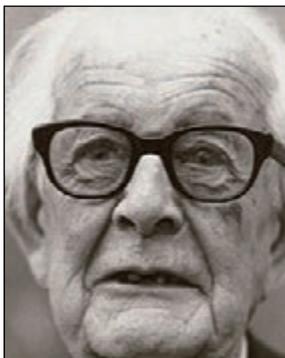


■20世紀の心理学理論を多様に取り入れたピラミーデ

ピラミーデを開発したカルクは、このように、70年代以降オランダの小学校教育に大きな影響を与えたオールタナティブ教育の利点をすすんで取り入れたほか、ピアジェやヴィゴツキーなどの発達心理学の古典的権威者の理論、さらには、今日の教育学や発達心理学の先端を行く、現役研究者らの理論も進んで参考にしています。その代表例として、子どもの多面的な才能を発見し刺激する「知

能多重説」理論、子どもの安全性・ウェルビーイング・情緒の発達に関わるニアネスの考えをささえる「アタッチメント理論」、子どもたちが、「ここ」と「今」とから距離を置くことで、自身の立場を客観的に振り返るといふ、高いレベルの知性を身につけるための「Distance（ディスタンス）理論」と「Nearness（ニアネス）理論」によって子どもを教えます。



ジャン・ピアジェ。スイスの心理学者。

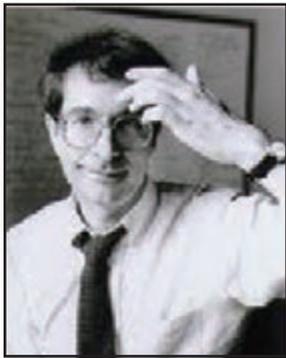
20世紀において最も影響力の大きかった心理学者の一人です。子どもの発達を量的に拡大するのではなく、質的な展開を遂げることを、自分の娘たちの遊びの実験から解明しました。ピラミーデのプロジェクトの実践に、ピアジェの発達理論が導入されています。



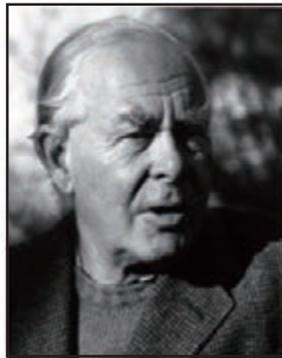
レフ・セミョノヴィチ・ヴィゴツキー。

ロシアの天才的心理学者。

子どもの遊び、特にごっこ遊びを通して展開される子どもの想像性に光を当て、子どもは遊びを通して現実を超えるといいます。ピラミーデの遊びの中核はヴィゴツキー理論で構成されています。



ハワード・ガードナー。アメリカの心理学者。
知能は7つの領域に分かれているという説を発表し、世界中の教育学者に新鮮な論議を打ち出しました。ピラミーデの年間カリキュラムは8つの領域に分けられていますが、ガードナーの知能多重説から導入しています。また、ピラミーデの保育環境のデザインも同じ理論背景で構築されています。



ジョン・ボウルビィ。
イギリス出身の医学者、精神科医、精神分析家。
母子間の愛着と分離に関する研究は、日本の幼児教育や保育界にも大きな影響を与えた学者です。ピラミーデの基礎石の一つである、心理的愛着 (Psychological nearness) はボウルビィ理論から取り入れています。



イルビング・シーゲル。アメリカの心理学者。
子どもの知的認識の研究者です。ピラミーデ開発者のカルク博士が大きな影響を受けた学者です。シーゲルの距離感理論は、ピラミーデの距離感 (Psychological distance) に応用されています。



パウロ・フォン・ゲルト。オランダの教育学者。
従来の発達心理学理論に対して、発達とは段階的に変化して行くのではなくて、環境との相互作用を繰り返しながら発展していく、動的心理学を唱えています。ピラミーデの短期と長期サイクル理論に応用されています。